

低料金で便利なデマンド式の公共交通の実現を



立身 万千子

問 高齢化の深刻な横手市の市民の足を確保するために、市長の考える「新しい公共交通システム」とは何か。

答 既存の路線バスや一定地域をくまなく走るコミュニティバス、デマンドタクシー、環状ルートを走る循環バスなど様々な要素を組み合わせて創るシステムである。

問 法定協議会は地域の利用者や事業者、道路管理者等で構成されるが、その前段階で交通弱者の視点を中心にすえる協議の場が必要ではないか。

答 地域づくり協議会の代表が、交通弱者など地域住民の声を法定協議会で反映できる。そこで計画を策定し、22年度に住民アンケートを実施する。

問 法定協議会で計画する実証実験を進めるための主役は市民であり、市長の公約である「市民との協働」を推進して初めて実現できるのが公共交通と考える。市民が自分達の「足」を確保して「住みやすいまちづくり」を実践していくために公共交通をどう方向づけるか。

答 デマンド交通等を実証実

験することで、地域に合った交通システムを検証し、絶えず振り返ってニーズ調査を実施していく。

問 観光の振興は、観光連盟がカナメとなり、観光協会の連携と市の積極的支援が必要である。市内各地の「かまくら・ぼんでん」と他の祭を一体化させ、宿泊を伴った観光ルートを作るべきではないか。

答 市内の小正月行事を組み合わせることで次年度に向け取り組んでいる。

問 各地域の「ぼんでん」を、地域興し事業として位置付け、予算措置を求める。

答 地域づくり協議会で、倍加した予算を活用した提言を期待する。



利便性向上が望まれる乗合バス

市独自の農業振興策を



小沢 秀宏

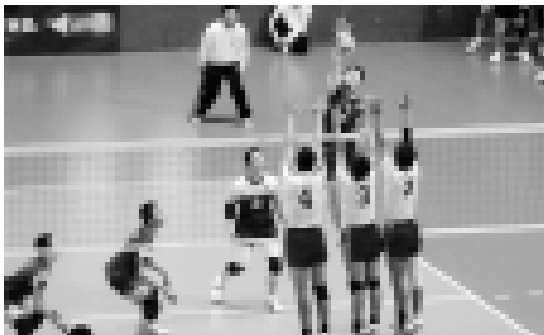
問 横手市の基幹産業は農業であり、農業の振興なくして市の活性化、活力増加は考えられない。現状は従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加と問題が山積している。市の農業を活性化させるためには、地域農業の担い手である新規就農者の確保、育成が喫緊の課題であり、若者に就農を義務付ける「徴農制」の導入と「臨農学校、私立農業小学校」を提唱する。横手市として独自の農業振興策をどのように考えているか。

答 市内の各小学校では農業体験を実施しており、これをさらに充実させ実践的な作業を体験してもらうことは将来に向けよいことであると考えている。また、今後は農業を含めた宿泊体験学習も検討している。農業に興味を持ってもらうことや、住んでいる地域を好きになってもらうことは、担い手の確保にもつながることであり、教育機関とも連携を図りながら事業を進めていく。

問 家庭バレーや老人バレー、社会人バレーなど数多くのサ

ークルがあり、県立雄物川高校男子バレー部をはじめ中学校も常時秋田県のベスト3に入るなど、横手市がバレーのまちであることは県民が周知のことである。全国の強豪チームが集まる「横手わか杉カップ」を継続して事業化すべきと思うがどうか。

答 平成23年度には7月下旬から北東北高校総体インターハイ男子バレーボール競技会が横手市で開催されるので実施も含めて検討している。平成24年度以降については関係競技団体及び関係機関と協議を重ね、実行委員会において検討したい。



春高バレーで活躍する雄物川高校